

2025 年 11 月 13 日

各 位

科研製薬株式会社

炎症性腸疾患治療薬「NM81」に関するライセンス及び共同開発契約締結について

科研製薬株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：堀内 裕之、以下「科研製薬」）と、Numab Therapeutics AG（スイス、ホルゲン、最高経営責任者（CEO）：Barbara Angehrn Pavik、以下「ニューマブ社」）は、炎症性腸疾患（IBD）を対象疾患とする新規多重特異性抗体医薬「NM81」（旧開発コード：「ND081」）の戦略的なライセンス及び共同開発契約を本日締結しましたのでお知らせいたします。

本契約締結により、科研製薬が 2024 年 11 月に締結した共同研究契約に附随するオプション権に基づくアジアの特定の地域における「NM81」の販売権を取得しました。科研製薬は臨床 PoC 取得までの開発費の大部分を負担し、ニューマブ社は非臨床および臨床開発の主要な実施主体となり、両社は「NM81」の共同開発を推進します。

本提携の結果、ニューマブ社が製品の事業化に成功した場合、科研製薬はニューマブ社から一定額までの対価を受け取ります。

「NM81」は、IBD の病態に関与する複数の標的を同時に阻害することで、高い治療効果が期待されるファーストインクラスの生物学的製剤となる可能性があります。

科研製薬の代表取締役社長である堀内 裕之は、「ニューマブ社とのパートナーシップを拡大して、「NM81」の IBD での臨床開発を推進できることを誇りに思います。科研製薬の開発力とニューマブ社の最先端の多重特異性抗体技術を組み合わせることで、IBD を抱える患者さんのアンメットメディカルニーズに応える革新的な治療法の実現を目指し、研究開発を加速していきます。」と述べています。

ニューマブ社の最高経営責任者（CEO）である Angehrn Pavik 氏は、「NM81 の開発を進める中で、科研製薬とのパートナーシップを深められることを嬉しく思います。この新しいパートナーシップは、当社独自の λ-Cap™ および MATCH™ テクノロジープラットフォームを活用して、革新的な多重特異的治療法を共同で推進するという当社のビジョンを反映しています。」と述べています。

以上

(参考)

【Numab Therapeutics AG】

Numab Therapeutics AG は、炎症、がん、及びアンメットニーズの高い疾患を対象とした多特異性抗体ベースの免疫療法を開発するバイオテクノロジー企業です。独自のプラットフォームである λ -Cap™ および MATCH™ を使用した再現可能なプラグ・アンド・プレイ治療設計プロセスにより、ニューマブ社は従来の創薬の障壁を克服し、患者の利益を最大限に高めることを目的とした新薬および重要薬のパイプラインを構築するという独自の立場を確立しています。ニューマブ社の多様な研究パイプラインは複数の治療分野にまたがり、次世代のファーストインクラスおよびベストインクラスの医薬品を生み出す機会を創出しています。詳細については、<https://www.numab.com> をご覧ください。

【多重特異性抗体医薬】

1 つの分子が複数の抗原結合部位を持ち、複数の抗原に対する特異性を持つ抗体。通常の抗体は 1 つの分子が 1 種類の抗原を認識しますが、多重特異性抗体は複数の標的と結合することが可能であるため、病態部位への特異的な送達、相加・相乗的な薬理効果が期待できます。

【炎症性腸疾患（IBD）】

炎症性腸疾患（IBD）は、一般的に潰瘍性大腸炎（UC）とクローン病（CD）を指し、原因不明の腸管の慢性再燃性炎症性疾患です。いずれも 10 代後半から 30 代前半の若年層に好発します。UC は直腸から連続的に炎症を生じ、CD は非連続性に全層性炎症を呈することが特徴です。

【臨床 PoC（Proof of Concept）】

対象とする疾患への当該物質のコンセプト（作用機序や作用部位）が有効性・安全性を含めて妥当かどうかを実証する臨床試験のこと。

注意事項:

このニュースリリースに記載されている当社グループの事業に関する将来の見通し等の記述は、現時点で入手可能な情報から予測したものであり、今後の様々な要因により実際の結果とは異なる可能性があります。また、このニュースリリースに含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する記述は、宣伝、広告等や医学的アドバイスを目的としたものではありません。

【本件に関するお問合せ先】

科研製薬株式会社

広報 I R 部

TEL : 03-5977-5002